

# 第1章 南丹市の現況と課題

## 1. 南丹市の現況特性

### (1) 広域的位置づけ

本市は、京都府のほぼ中央部に位置し、北は福井県と滋賀県、南は兵庫県と大阪府、西は綾部市と京丹波町、東は京都市と亀岡市に隣接する面積 616.31 平方キロメートル（京都府の 13.4 パーセント）の、府内では京都市に次ぐ広大なまちです。

道路基盤は、北部に国道 162 号、南部に京都縦貫自動車道（国道 478 号）、国道 9 号、国道 372 号、国道 477 号、南北に貫く府道園部平屋線が走っており、さらに市内を走る各府道が国道へのアクセス道路となっています。

また、鉄道は南東の京都市から北西にかけて J R 山陰本線が走っており、京都市などの通勤圏にあります。さらに J R 山陰本線京都～園部間については完全複線化が完了しています。



■ 位置図 ■

## (2) 人口・世帯数

### ① 人口

人口は、平成7年に一旦増加したものの、平成12年から再び減少傾向にあり、平成17年は36,736人となっています。

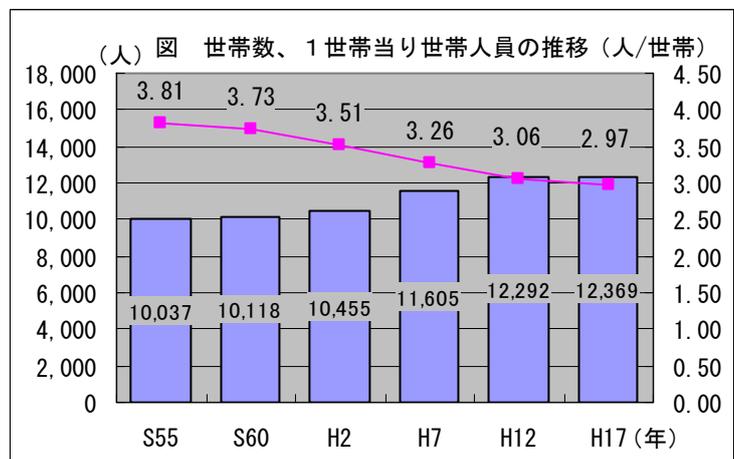


(出典：国勢調査)

### ② 世帯数

世帯数は、近年、やや鈍化しているものの、堅調な増加傾向にあり、平成17年には12,369世帯となっています。

1世帯当りの人員は、年々低下する傾向にあり、平成17年には3人を下回って2.97人/世帯となっています。

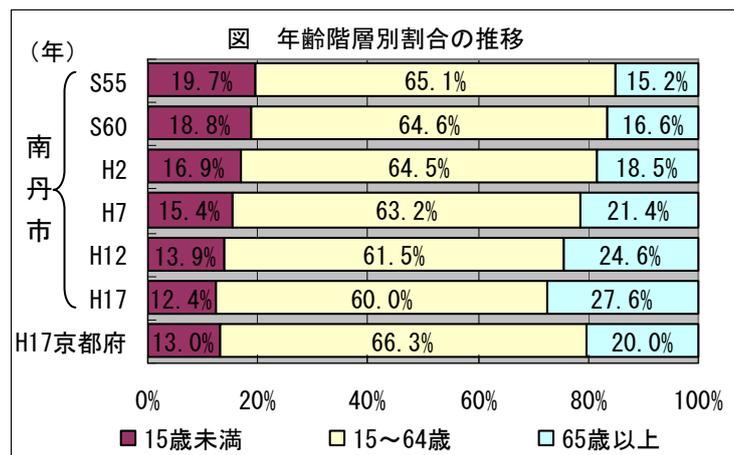


(出典：国勢調査)

### ③ 年齢階層別人口

年齢階層別人口の推移をみると、15歳未満人口割合の減少、65歳以上人口割合の増加といった少子高齢化の進行がうかがえます。

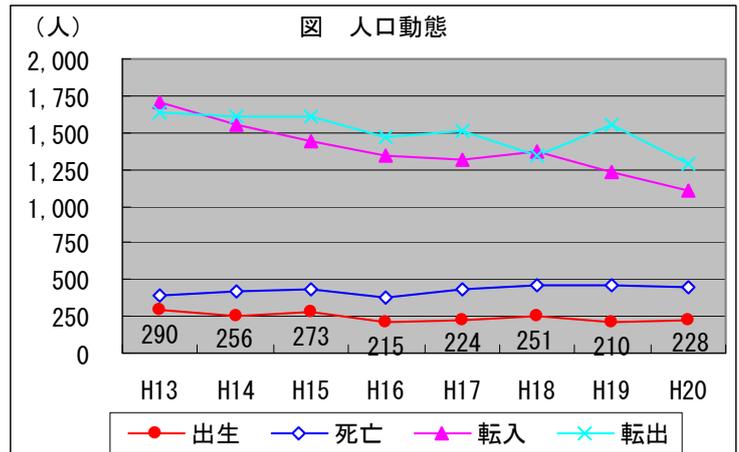
京都府全体の平均と比較しても、少子高齢化が進行している状況にあります。(平成17年時点)



(出典：国勢調査)

④ 人口動態

近年の人口動態をみると、自然動態については、死亡数が出生数を上回る自然減が続いています。社会動態については、平成14年に転出超過に転じて以降、平成18年以外は社会減が続いています。



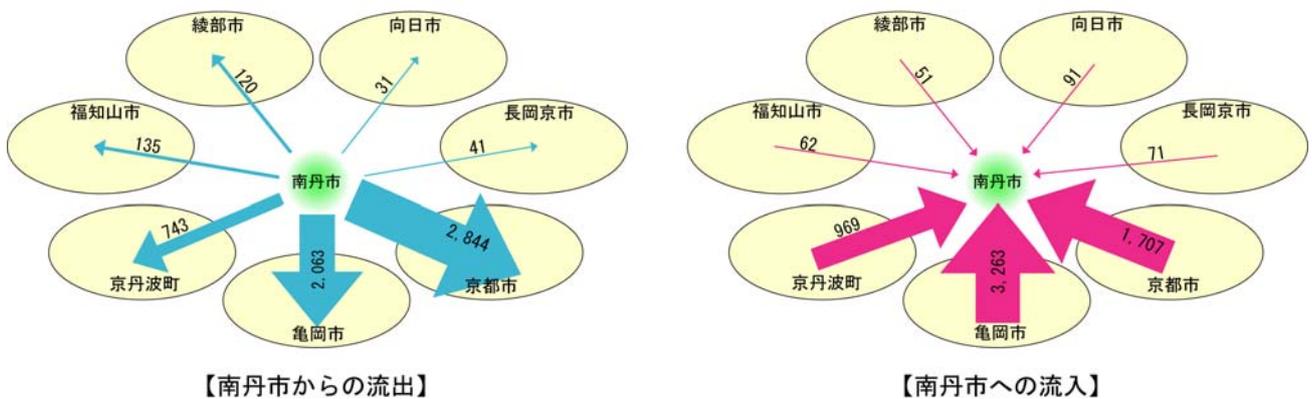
(出典：住民基本台帳)

⑤ 通勤・通学人口（流出入状況）

平成17年における本市に居住する就業者・通学者は20,969人であり、うち32.2%の6,742人が市外に流出しています。主な流出先は、京都市(42.2%)、亀岡市(30.6%)、京丹波町(11.0%)の順となっています。

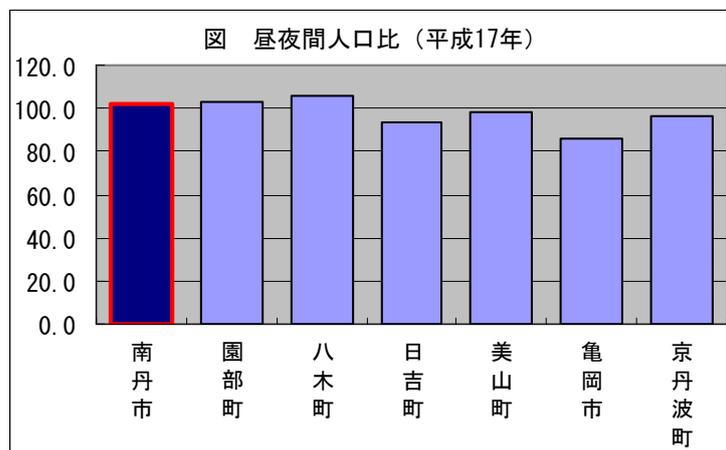
他市町村からの通勤・通学者は7,338人であり、主な流入元は亀岡市(44.5%)、京都市(23.3%)、京丹波町(13.2%)の順となっています。

南丹市全体では596人の流入超過(昼夜間人口比は101.6)となっており、旧町でみると、園部町と八木町は流入超過、日吉町と美山町は流出超過となっています。



■ 通勤・通学の状況 ■

(出典：国勢調査)



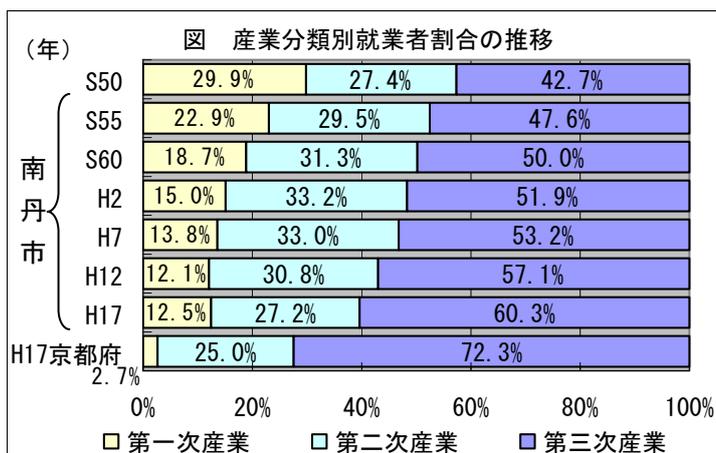
(出典：国勢調査)

### (3) 産業

#### ① 産業別就業人口

第一次産業は減少傾向が続いていたものの平成17年に増加に転じています。第二次産業は平成2年までは増加傾向にありましたが、近年減少傾向に転じています。

京都府全体の平均と比較すると、第一次産業の割合が高く、第三次産業の割合が低くなっています。(平成17年時点)

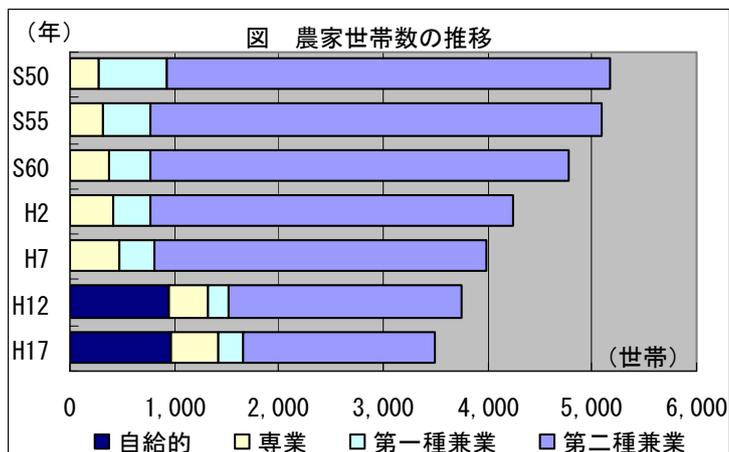


(出典：国勢調査)

#### ② 農業

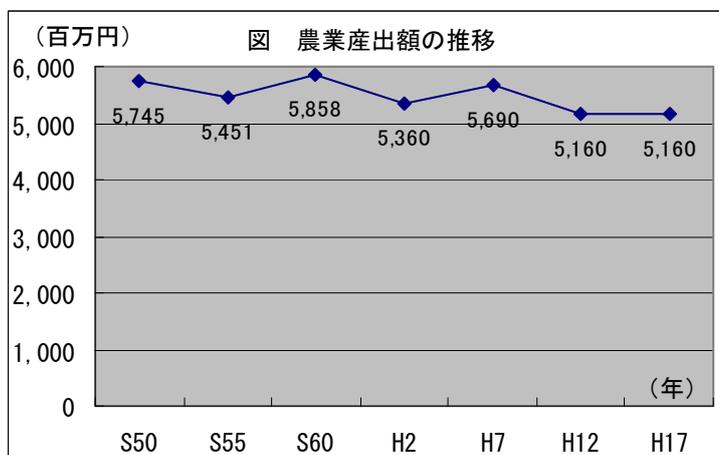
農家世帯数は年々減少しており、特に第二種兼業農家の減少が著しくなっています。

農業産出額は、昭和60年を境に減少傾向にあり、平成17年では5,160百万円となっています。



(出典：農林業センサス)

※平成12年から調査項目に「自給的農家」が加わっている。



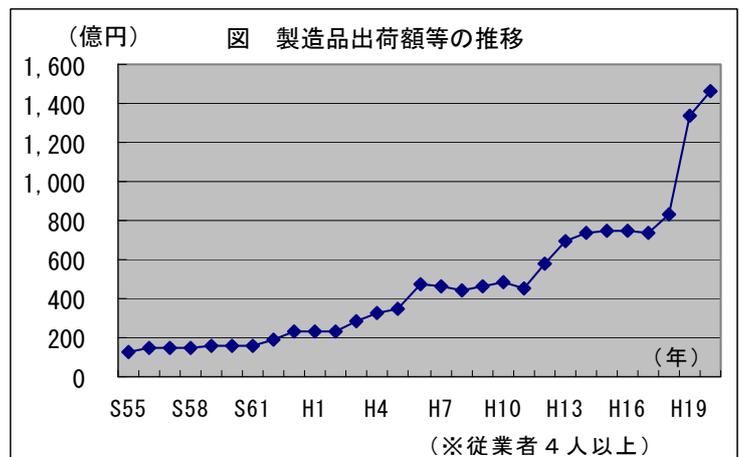
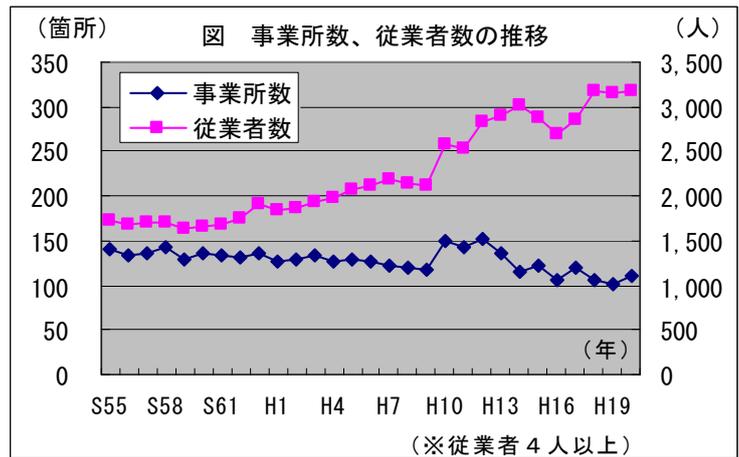
(出典：近畿農政局)

③ 工業

事業所数は平成12年をピークとして減少傾向に転じていましたが、近年は110箇所前後で推移しています。従業者数は、概ね増加傾向が続いていましたが、近年は3,200人前後で推移しています。

製造品出荷額等は、緩やかな増加傾向にありましたが、京都新光悦村の整備に伴って、平成19年以降急増し、平成20年には約1,460億円となっています。

平成20年の産業分類別状況によると、事業所数は繊維産業、従業者数は食料品、製造品出荷額等は輸送用機械がそれぞれ最も多くなっています。



◇ 産業分類別の状況 (平成20年、全数) ◇

	事業所	従業者数	製造品出荷額等 (万円)	
総数	111	3,173	14,623,147	100.0%
食料品	17	1,173	4,587,107	31.4%
飲料・たばこ・飼料	1	32	X	—
繊維	23	191	482,472	3.3%
木材・木製品	10	124	402,707	2.8%
家具・装備品	2	14	X	—
パルプ・紙・紙加工品	2	25	X	—
印刷	6	120	305,179	2.1%
化学	3	52	103,142	0.7%
石油・石炭	1	4	X	—
プラスチック製品	10	153	319,632	2.2%
皮革	1	6	X	—
窯業・土石	5	162	327,441	2.2%
鉄鋼	1	38	X	—
金属製品	8	92	64,222	0.4%
はん用機械	2	27	X	—
生産用機械	2	58	X	—
業務用機械	2	74	X	—
電子部品・デバイス	2	35	X	—
電気機械	4	29	51,450	0.4%
輸送用機械	4	649	7,062,775	48.3%
その他	5	115	203,905	1.4%

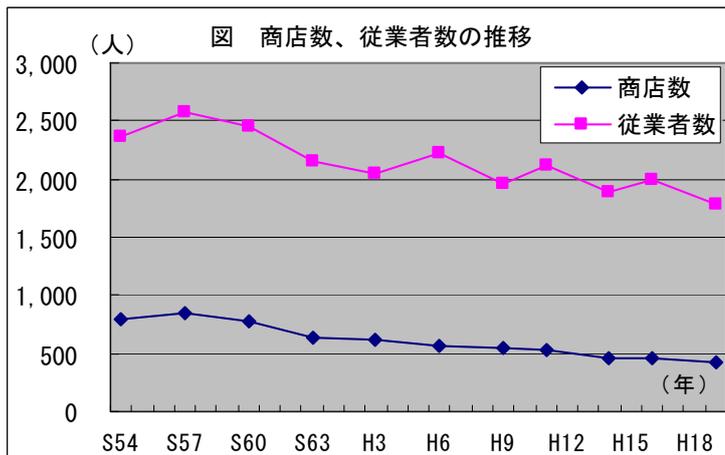
(X：統計法に基づく秘匿数値)

(出典：工業統計調査)

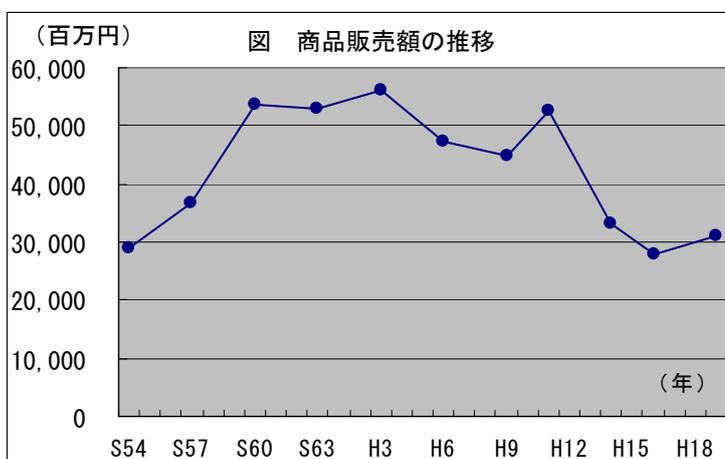
④ 商業

商店数、従業者数ともに、減少傾向にあります。

商品販売額は、平成3年まで増加傾向にありましたが、平成6年には減少に転じ、平成11年に回復したものの、近年大きく減少しています。



(出典：商業統計調査)

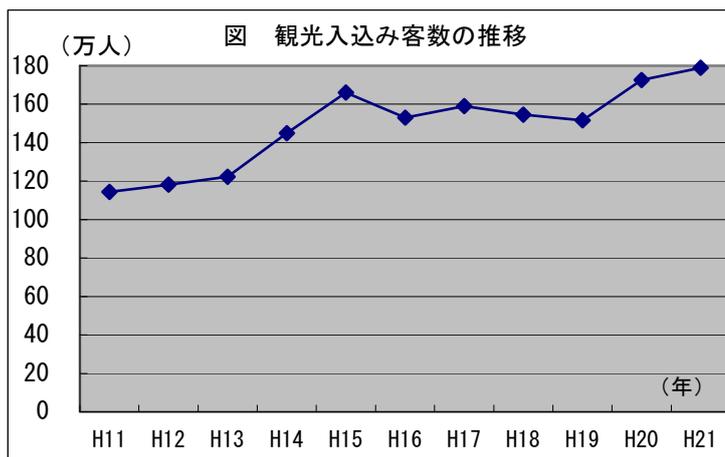


(出典：商業統計調査)

⑤ 観光

広大な自然林が広がり貴重な動植物が息する芦生原生林、日本の原風景となっている美山のかやぶきの里、「京阪神の水がめ」といわれる日吉ダム、四季折々の美しさを見せる景勝り溪、桜並木で有名な大堰川河畔などの観光資源に多くの観光客が訪れています。

年間の観光入込み客数は、近年は155万人前後で推移していましたが、平成20年以降増加傾向にあり、平成21年には約180万人となっています。



(資料：京都府観光コンベンション室)